

NPO 法人 京都丹波・丹後ネットワーク

2018 年度事業計画書

2018 年 4 月 1 日～2019 年 3 月 31 日

目次

2018年度 事業計画にあたって.....	2
(予定事業一覧)	
NPO 等団体活動支援事業	3
情報発信支援事業	3
地域ショップ販売支援事業.....	4
たんたんスペース活用事業.....	5
課題を抱える親子・高齢者への支援	6
組織概要	7

2018年度 事業計画にあたって

1. 本年度の基本方針

2010年6月9日、NPO法人 京都丹波・丹後ネットワークを設立 2018年6月に設立し、今年で8周年を迎えます。

設立以来、①NPO法人等ネットワーク構築・活動支援事業、②人づくり事業、③地域デザイン(収益事業)などを軸に、人と人、団体と団体(NPO、自治体、企業、行政、大学など)のネットワークを構築することにより、京都丹波・丹後地域の活性化をめざし、活動してまいりました。

そこから見てきたものは、まちづくり、地域づくりはイベントではなく、未来を生きる人たちのことも考えて福祉・環境・防災・観光などすべてのことを総合的に考え実行していくもので、行政だけでなく多様な主体が共に知恵を出し合って進めていくしかないのだということです。

その中で今後必要なことは、中長期ビジョンを構想し、5年後10年後の地域、そしてNPOの目指す姿(私たちは何のために存在するのか)を描き、それに沿って1年1年を積み重ねていくことです。

新たなスタートである今年度は、福祉系NPOやまちづくり系NPOへの情報発信の提案や支援を行う中で、まちづくりに対して俯瞰の目と、福祉分野・環境分野などを含めた総合的な地域づくりに向けた取り組みを行ってきたいと考えています。

2. 重点項目

中間支援としての役割の見直し

- NPO等団体活動支援
- 情報受発信支援
- 地域ショップ販売支援

未来のまちづくり支援

- たんたん X 交差点…「地域」を様々な視点から学び、未来のまちづくりを多様な主体が共に考え行動に結び付けられるようなまちづくり講座を開催
- 居場所づくり・交流の場づくり…孤立する高齢者や家庭に何らかの課題を抱える親子などが安心して集まれる場を作り、信頼できる関係を築くことで、協力し合って暮らせるコミュニティを作る

①NPO 等団体活動支援事業

NPO等支援(NPO 法人、自治会、市町村等)

⇒組織や運営を見直し、それぞれのミッション達成、地域活性化へ

・NPO 活動分析・アドバイス等支援事業

内容: NPO からの依頼を受けて、年間を通して活動の分析・アドバイス等を行う。

・災害復興支援NPOリレーションズ実行委員会メンバーとしての活動

活動趣旨 近年京都府でも増加傾向にある自然災害による被害に対応し、NPO 等が有する高度な専門性や豊富な現場経験を活かし、被災地で個別具体的かつ中長期的な復興支援活動ができる連絡・派遣の仕組み「災害時連携NPO等ネットワーク」の充実を図る。

活動内容 趣旨を理解していただき、市民や団体に参加を呼びかける

- 「災害時連携NPO等ネットワーク」の充実を図るため、会議への参加
- 8月中丹で開催予定の総会準備⇒防災バーベキューを同時開催し、市民への参加を呼びかけ

・その他支援事業

- Web ページ及び Facebook ページによる情報発信
- NPO 法改正に伴う支援
- 助成金等申請支援
- 会計・収支報告等支援
- マネジメント支援
- 人・団体・企業・大学・行政等とのネットワークづくり

②情報発信支援事業(収益事業)

1 事業の趣旨・特徴

事業への思い

地域(企業)情報やコンテンツをデザインし、京都北部の情報発信力を高め、魅力ある発信を行うことにより、住みやすい地域をつくり、地域経済の活性化を促す。

さらに、地域と団体、企業等をつなぎ、コーディネートすることにより、京都北部が一体となった活性化を進める支援を行う。

事業背景

【京都北部の課題と事業の背景】

京都北部は海と山を兼ね備えた素晴らしい地域であるが、地域をデザインする能力、発信する能力の不足などから、地域自体もその魅力をどのように活かせばよいのかわからず、京都北部の魅力を伝えきれていない。

また、企業においては中小零細企業が中心であるため、せっかく情報発信ツールとしてのHPを持っていても、活用・更新されないままであったり、スマホ対応されていないなど、現状に即さないものも多く見受けられ、新たな顧客の獲得や有能な人材の確保、他地域への魅力発信がうまくなされていない。

とりわけ、NPO にあっては HP などの情報発信手段を持たないところも多く、素晴らしい活動をしていても、それを利用者などに知ってもらえないケースが数多く見受けられる。

特に福祉関係や人権などの NPO については、活動が知られていないために利用機会を失い、利用者の命を左右することも多く、今後行政の財源や職員数が減少していくことを考えると、一つひとつの活動を周知することはとても重要になってくる。

2 事業の概要等

●地元企業・団体応援のためのトータルデザイン

【特徴と内容】

HPやSNSをそれぞれの特徴を生かし、うまく活用することで、団体の活動内容や魅力を発信、あるいは企業の顧客獲得、人材確保等につながるよう、①コンテンツの内容(何を誰に何のために発信したいのかなど) ②更新のしやすさ ③SNSとの連動 ④スマホ対応 ⑤魅力あるデザインを考えて、利用者・顧客目線のHPやFB ページ、ロゴ等を作成

●地元企業・団体への IT 活用継続支援

【特徴と内容】

ふるさと納税サイト、旅行・宿泊情報サイトなどへの登録や管理を代行して行う。IT の活用に慣れていない農業者等の販路拡大、情報発信を支援。

③地域ショップ販売支援事業(収益事業)

1 事業の趣旨・特徴

事業への想い

福知山の旧3町など過疎が心配される地域の特産品を、それぞれの地域のアンテナショップとして月1回販売することで、市街地の人にも商品を知ってもらうきっかけにする。

また、地域の空きスペースを活用して、地域に賑わいを取り戻すことも可能になる。

事業背景

【事業の背景】

三和地域や大江地域などでは、「夕焼け×マーケット」「鬼和味」などが地域ショップとして特産品を販売されているが、それをより多くの方に知っていただくためのきっかけになるのではという思いと、事務所の大家

さんが空きスペースを活用して何か地域のために出来ないかという相談に応じる形で月一回の開催を決めた。

2 事業の概要等

●月一でアンテナショップ「たんたん市場」を開催⇒地域ショップの募集、取りまとめ、広報等を担当

【特徴と内容】

それぞれの地域の特産品の物語(こだわりや伝統など)を、SNS やちらし、新聞記事などを利用して文字にし、商品をただ販売するのではなく、地域の思い、作り手の思いまでも販売する。また、それぞれのショップの交流の場、情報交換の場としても活用。

【期間・日時】

2017年8月～ 毎月第4金曜日14:00～17:00

【商品】地域の農産品から加工品まで

【広報】ちらし、新聞記事、SNS 他

●毎週水曜日に「シャルムの日」を開催⇒場の提供と広報の支援

【特徴と内容】以前は街中で販売されていたアップルパイが、イベント時しか食べられなくなったことから、多くのシャルムファンに購入する機会を提供したいと思い開催。また、今後 HP の刷新など、情報発信支援にも力を入れていく。

【期間・日時】2017年10月～ 毎週水曜日14:00～19:00

【商品】アップルパイ等の販売

【広報】SNS 他

収入:27,000 円(参加費及び会場使用料)

④たんたんスペース活用事業(収益事業)

1 事業の趣旨・特徴

事業への思い

まちづくりを推進していくためには、様々な人が集まり、情報を共有し合い、話し合う場が必要となる。市街地にそういった場が作れたことは未来のまちづくりに必ず通じると考えている。

私たちはこの場をより活用しやすいものとして、より多くの人、団体に使っていただけるよう発信していきたいと思っている。

事業背景

【事業の背景】

当 NPO の隣の空き部屋を、大家さまのご厚意で使用させていただけることとなり、どのような活用方法が出来るかを話し合い、親子への支援・高齢者支援・講座などの開催を含むまちづくりの拠点として活用していくことにした。

2 事業の概要等

●市民のための各種講座

【内容】高齢者のためのスマホ等講座、初心者のためのマック講座、高齢者・子ども向け英会話教室、マク
ロ写真入門講座、お母さんのための赤ちゃん撮影講座などを予定

●「たんたん X 交差点」まちづくり講座 & 交流

【内容】毎月まちづくりに関するテーマを設定し、専門の講師をお招きして講座を開催。前半は講座、後半
は参加者で食事を取りながら交流。

【期間・日時】2018年3月～毎月第2金曜日19:00～21:00

【広報】HP、FB ページ、ちらし、口コミ

食事は、地域の特産品を紹介する形で行い、米や野菜、加工品などを、産地などを表示して提供した。

●毎月第1水曜日はふくちやま CAP の「つながる一む」

⇒場の提供と情報発信支援

【内容】ふくちやま CAP の活動。子育ての悩みを話したり、相談できる場を月 1 回儲け、偶数月はワークシ
ョップ形式で、奇数月は個別相談日として活用する。

【期間・日時】2018年3月～ 毎月第2金曜日19:00～21:00

【広報】HP、FB ページ、ちらし、口コミ

⑤課題を抱える親子・高齢者への支援

1 事業の趣旨

●課題を抱える親子への支援

「どんどこひろば」：日本 NPO センター助成事業(児童館協働事業) × 2か所

目的:それぞれの親や子が課題を抱えながらも、一つの場に集まり、様々な人と関わる中で、心の居場所
を見つけ、笑顔を取り戻す。

「小さな国際交流カフェ」：たんたんスペースを活用して、この2年間に関わってきた外国にルーツを持つ親
子やその他にも福知山市周辺で暮らす人たちに声をかけ、母国語で話ができる場を作る。

●高齢者への支援

「たんたん大学」：プレ高齢者のための学びの場づくり…健康や経済状態、ライフスタイル等も多様化する
中で、個々人が必要な生涯学習を選択できる場を、プレ高齢者の時期にあたる 50 代から 60 代(特に退職
前後)のうちに作っておき、その後の人生設計、生き方を豊かにする。

「出張写真撮影」: 歳を重ねるにつれ、写真を写す機会が減っていき、気が付いたら集合写真しか残っていない、そんな中高齢者が増えている。子どもたちや孫のためにも、そして自分自身が生きた証としても、一年に一度、気に入った場所、気に入った服装で写真に残す。

NPO 法人 京都丹波・丹後ネットワーク組織概要

会員・寄付金

正会員(1口 1,000 円)15名

寄附目標 300,000 円

事務局体制

当 NPO の副理事長が事務局長として通年勤務。他 NPO スタッフとして1名の理事と1名のスタッフ、計3名体制で活動。必要あるときはアルバイトを雇用。